

要 望 書

地域を守る総合的な土砂災害対策の推進について
～球磨川水系（川辺川）直轄砂防事業推進～



泉町 山ノ津谷川（平成17年 台風14号被災）

令和6年7月
熊本県八代市

球磨川水系（川辺川）直轄砂防事業推進について

球磨川水系（川辺川）直轄砂防事業につきましては、特段のご理解とご高配を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

球磨川は、流域面積、流路延長ともに九州で第三位の大河川であり、日本三急流の一つに数えられる急流峡谷を形成し、その流域である八代市は、古来より球磨川水系の織り成す豊かな自然と、その自然に育まれた独自の文化、自然の恵みを基盤とした各種産業によって発展を遂げてまいりました。

しかし、その恵み豊かな球磨川は、一方では幾度となく尊い人命や貴重な財産を奪ってきた歴史をもつ「暴れ川」でもあります。

この球磨川の支川、川辺川の最上流域に位置する八代市泉町は、平成17年の台風14号では、甚大な土砂災害により道路が寸断され、災害直後においては、泉地区内47地区内の5地区36世帯103名が孤立する事態となりました。当該地域では、これまでもこのような土砂災害に見舞われており、地域住民の不安は未だ解消されていない状態であります。

また、近年は気候変動による水災害の激甚化・頻発化が顕著であり、球磨川流域でも令和2年7月豪雨により甚大な被害に見舞われたことを受け、熊本県では命と環境を守る「緑の流域治水」を進めることとし、水害のみならず流木や土砂災害も念頭に、流域内のあらゆる関係者の協働による取り組みが求められています。

このような中、球磨川流域の3割を占める川辺川流域においては、平成17年の

災害以降、砂防堰堤が重点的に整備され、令和4年3月にホンノコウ谷川砂防堰堤が完成するとともに、令和2年度からは縦木川第3砂防堰堤の事業に、加えて令和4年度より山の津谷川砂防堰堤事業に着手し、早期完成に向けて事業促進を図られているところです。

砂防堰堤の整備は、生命、財産はもとより、地域にとって重要な道路などの社会基盤を土砂災害から保全し、熊本方面や人吉球磨方面への物流や人流の活性化にも寄与しておりますが、令和2年以降も令和4年台風14号始め降雨の度に斜面や山腹の崩壊、それに伴う土砂流出や流木、さらには河川の濁りなどが毎年続いており、主要産業である林業や観光面にも支障を来しているほか、過去に整備されたものの度重なる土砂流出により損傷した施設が散見されるようになったことも不安視されます。

つきましては、流域住民が安心して生活できるよう、引き続き、直轄砂防事業の推進及び予算の確保をお願いするとともに、以下について特段のご支援とご配慮をいただくよう要望致します。

記

1. 安全安心の確保に資する砂防事業と「緑の流域治水」の推進

頻発する土砂流出・流木発生の抜本的対策として、森林整備や治山事業と連携するなど、あらゆる関係者との協働により砂防堰堤や流木捕捉施設等の整備を引き続き進めていただくとともに、既存施設の長寿命化や機能改良など、安全安心の確保に資する砂防事業、さらには環境面とりわけ森林の機能保全や再生に資する「緑の流域治水」を推進していただきますようお願いいたします。

2. 住民の生活維持と主要産業、地域活性化に資する砂防事業の推進

毎年のように土砂災害により道路の寸断・孤立が発生するなか、生活環境の維持と早期復旧、さらには当地域の主要産業である林業や観光（遊漁、登山など）、地域活性化支援のため、砂防施設の計画的な整備と合わせて、被災時の迂回路確保や被災後の早期復旧につながる管理用道路の適切な維持管理を進めていただきますようお願いいたします。

3. 国土強靱化の計画的な推進

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に関連する必要十分な予算・財源を確保するとともに、「5か年加速化対策」後も切れ目なく国土強靱化を進めるため、国土強靱化実施中期計画を早期に策定し、継続的・安定的に国土強靱化に必

要な予算・財源を別枠で確保していただくようお願いします。

4. TEC-FORCEなどの技術的支援

当地域が位置する九州山地では、過去に深層崩壊など大規模土砂災害が繰り返し起きており、その度に行政機能が麻痺する事態となっている一方で、人口減少や高齢化の進展、多様化する行政ニーズの増大等に伴い、防災業務に従事する職員の確保も困難となっています。

つきましては、土砂災害時における避難情報提供の判断に資する技術的支援やTEC-FORCEなどの技術的支援、平常時における防災訓練の取り組み支援についても特段の配慮をお願いするとともに、これら土砂災害時の自治体支援に従事する地方整備局等・研究機関において必要な人員や体制の充実・強化を図ることにご配慮を賜りますよう要望いたします。

令和6年7月

八代市長 中村博生